

ブレンンドの日

中西祐介

少し早いかき氷の匂い

夕方になれば全てが落ち着いてくる

願っている 叶わないが

お金になる言葉を探している
不安な不穏がやつてくる
胸の辺り 嫌な感じが広がつて
呼吸は浅くなる

どの花にもだいたい名前があり
想いは言語化され
私は磨耗し めげる寸前 である

微熱を解熱剤で隠し
痛みを痛み止めで閉ざし
睡眠時間を抉つて
探している

あの日 私になにができる
できなかつたから ここに
いなかつたら よかつ
たとでも

ただ花を眺めて写真を撮つて
きれいだな と思えた
囚われた安定を
平穀だつた日々を 返してほしい

ペットボトルのミルク多めのカフェオレの後味が
ワサビ みたいで
わざわざグラックコーヒーを買ってきて
混ぜて飲めるようにした

殺伐とした現実はやつてきて
ドガドガと乱暴にノックする

ブレンンドシップティー
あ オスプレイだ

慌てるなよ 待つているから
落ち着き払つたようすだけはみせる
本当は参つてゐる